

サロンあべの

VOL.183

〈サロン・あべの〉 8月の出会い

平成13年8月12日(日)〈サロン・あべの〉8月の出会いは、恒例の

「あべのカーニバル

なんでも

市通り」で、

「さろん亭」の

開店です。

今年の「第28

回あべのカーニ

バル」は、参議院

選挙の関係もあつ

て、例年より1週

間遅れの第2日曜

日となりました。

気になったのは、や

はり当日の空模様で

す。連日の猛暑が続

く中で、この日は曇

りがちな天気となり

ました。

午後1時に、「さろ

ん亭」の開店準備のため、会場

である市立工芸高校のグラウンドへ集

合しました。グラウンド内の「なん

さろん亭

でも市通り」には、テントのある店、ない店、準備完了の店、準備

真つ最中の店など、買い物客の姿は少ないものの熱気あふれる店作りがそここ

りがそここでなされてい

ました。その一角に「さろん

亭」は店開きをしました。

多くの皆さんから提供して

いただいた品物が所狭し

と並べられていく中で、

気の早いお客さんは掘り

出し物はないか、お買い

得な品物はないかと品

定めに余念がありません。

そして、午後3時、

開会宣言が流れる中、

待ちかねた「さろん

亭」が開店しました。

店頭では、早速お客

さんからの値引き交

渉などが入り、販売

担当者は真剣にやりとりを交わし

ながら売り上げ増強に努めます。

人気商品の中でも、石鹸などは、

まとめ買いをされる方もおられ、

みるみるうちに品物がなくなっていきました。

また、グラウンド中央の舞台上では、地元

の演奏があつたり、高松地区の地

車囃子(だんじりばやし)が聞か

れたり、心浮き立つバックミュー

ジックでカーニバルを盛り上げて

いました。

客足も増えて販売も佳境に入つ

てきた頃、水をさすかのように突

然、ポツポツ雨が…。なんで今頃

と思う間もなく雨足が激しくなっ

てきました。そんな中でも品物を

買ってくださる方もおられ、嬉し

く思いました。そして5時、無事

に閉店となりました。

毎年このことですが、品物を寄贈

していただいた方、前日の品物の

値付け・搬出入や当日の販売のお

手伝い、その後の後片付け、残つ

た品物の搬送など、本当に多くの

皆さんにお世話になりました。

今年も多くの皆さんに支えられ

た「さろん亭」でした。ありがとうございました。

（山村貴司）

「さろん亭」の
バザーに参加して

前日の土曜日、思いがけなく曾根さんから電話があり、「八月十二日の『さろん亭』のバザーに行きませんか？」と誘ってくださいました。私は前から一度バザーに行ってみたかったのですが、夏の暑さに弱く、また家の用事もいろいろと忙しく、一人では行く気がしなかったのですが、曾根さんの電話で思いきって出かけることにしました。

午後三時、暑い中でしたが富田さんはとても涼しげな色白のお顔で座っておられました。側にサロンの絵はがきが置いてあり、とても美しい花の絵が描かれていました。一目で気に入って買いました。また私の大好きな水泳に使うバスタオルも素敵な物があり、手に入れて「ホクホク」。

顔見知りの山川さんが販売のお手伝いを

しておられたり、大北さん（アーチェリーの上手な方）や高尾さんにも久しぶりにお会いできて、少しですがお話ができ、嬉しく思いました。その後、会場を一周して、買いた物が重くなり、大事なおどんぶりを一つ曾根さんに預けるはめになってしまいました。また、「サロン淀川」に来られる時に持ってきてくださる事になっていきます。

△サロン・あべのVは土曜日の開催なの



にぎわう「さろん亭」

でなかなか行けません、また行ける日を楽しみにしております。

和田 保子

活気にあふれていた、
「さろん亭」！

夏まつさかりの八月十二日、「あべのカニバル」が開催され、そこに「さろん亭」が出店していると聞き、参加させていただきました。

その日は、あいにくのお天気で夕立ちが降りましたが、会場は多くの催しやお店で参加者も多く、にぎやかで楽しく過ごしました。その中でも「さろん亭」のバザーブースは、ひととき大勢のお客さん達に囲まれ、独自で作製された様々な商品も格安で販売していて、思わず私も買っちゃいました。

私は、地元の西区で「サロンにし」のス

スタッフとして活動しているのですが「さろん亭」のスタッフの皆様の活躍を見て、今後のサロン活動について、とても勉強になった一日でした。

スタッフの皆様、お疲れ様でした。そして、ありがとうございます。明るい笑顔で活気にあふれていた「さろん亭」に、来年もぜひ、参加させていただきます！

安藤 広二

<サロン・あべの>
のバザーに行って

平成十三年八月十二日(日)に、僕は和田さんと一緒にハサロン・あべのVのバザーを見に行きました。するとラッキーな事に僕が欲しいなと思った品物があつたので買わせていただきました。

そして、ハサロン・あべのVで何年か振りに会う方々や時々会う方々、その日初め

で出会った方々と、少しだけでしたがお話できたので良かったです。

それから、富田さんからも可愛らしい一休さんのキーホルダーをいただきました。

ハサロン・あべのVのバザーに行かせてもらい大変有意義な時間を送れて、本当にどうもありがとうございました。

T・S

「さろん亭」にご協力いただいた皆様

セルフ社、赤松憲二、安達尚子、

池田カツ子、伊勢村和子、井上礼子、

岩根佳婦子、上田敏子、上平幸雄、

大北清子、大高澄子、大谷美津子、

奥山慎也、恩田友和、加賀谷 正、

川村明美、木口久子、蔵田 均、

栗岡喜久子、桑田加代子、神城昭子、

小島敬大、小西京子、坂井柁子、

阪口悦子、皿谷千秋、清水郁子、

鹿野敏一、下村実幸、杉山蔦枝、

大丸久美子、高尾澄男、竹下秀樹(阿倍

野区肢体障害者協会カークラブ)、

竹村定子、千代松真佐子、辻本輝子、

手島八重子、出口正敏、寺田美津子、
富田十一・慶子・御喜代、中岡久美子、

中西久雄、中西利香、永堀厚子、

中村久子、鍋島真沙世、原田 仁・友弥、

久木 浩 表谷恵美子・拓郎、福田知子、

藤井さゆり、藤田洋子、本田 俊、

榎谷知代子、松本聡美、松森美智子、

丸山寿美子、八木千代子、山川 健、

倭 満也子、山根匡子、山野荘一、

山村貴司、山本篤江、山本敏子、

吉田章子、吉原和郎、芳村和子、

その他の方々、

感謝します

「さろん亭」は今年も多くの皆様方に品物の提供・搬送・値段付け・販売など、さまざまなお手伝い、ご協力をいただきました。猛暑の中、お顔馴染みの方々のご来店と、嬉しい出会いが続く中、突然の雨に慌てましたが、おかげさまで無事に終わることが出来ました。ありがとうございます。

収益金は(サロン・あべの)の運営資金に活用させていただきます。

「さろん亭」収益金六一、二〇五円
(サロン・あべの)運営委員会

障害者の雇用と 就労を考える

4

ノーマライゼーションと
機会平等理念

茅原聖治

ノーマライゼーションの究極的な目標は、雇用・就労を核とした障害者の地域生活ということになる。

最後に、「機会平等」理念について説明しよう。機会の平等という概念は元々民主主義的市場経済社会においては正当化されている。すなわち、すべての人々は自由に経済活動に参加することは保障されているのである。いわゆる「参加機会の平等」であるが、これは単に経済活動に参加する機会を阻害せず、すべての参加希望者にスタートラインにつく自由を認めることである。

しかし、障害者はこれまで保護すべき社会保障・社会福祉の対象として社会的弱者と位置づけられ、社会参加、とりわけ経済社会への参加の平等は実質的に保障されていなかった。

それでは、今なぜ機会平等の理念が障害者福祉を語る上であらためて注目されているのか。それは、従来の「ただスタートラインにつくだけ」の理念先行型の「消極的」機会平等理念ではなく、具体的な方法論と実質的な意義をもった「積極的」機会平等理念、「合理的な便宜供与」(reasonable

accommodation)を伴う実質的な機会平等理念へのパラダイム転換が近年図られつつある。「合理的な便宜供与」とは、障害者が各種の活動に参加するに当たって、健常者と同じ機能を発揮することができるように、さまざまな便宜を与えることでバリアを除去し、障害者がその能力を一〇〇%発揮できるようにすることである。

一九九〇年に成立した米国籍障害者法(A DA)は、この機会平等理念を具現化している。この法律では、雇用、交通手段、情報アクセスを含むあらゆる生活部面において障害を理由とした差別を禁止している。特に雇用については、すべての企業・事業所における障害者雇用差別の禁止が明言されている。その上で企業には、職務遂行能力のある障害者が職務遂行を円滑に行うための施設の整備や労働条件の再編成、採用試験や訓練に関する配慮などの「合理的な便宜供与」を行うことが求められている。

このように、障害者が働くことについては、根本的に考え方が変化・転換しつつある。次回は、その時代的背景に目を転じて考察することにしよう。

ノーマライゼーション(normalization)理念は、周知のように近年の障害者福祉を語る上で非常に重要なキーワードになっている。正村公宏によれば、ノーマライゼーションは「社会福祉事業の分野では、ハンディキャップを負った人々ができるだけ普通の市民と同様に地域社会の中で生活しつづけることができるような条件を作ることこそ重要だ」という考え方である。この定義にしたがえば、障害者が地域社会で大半の普通の市民が行っている雇用・就労を中心とした生活を送ることができるような諸条件を整えることが求められる。したがって、ノ

★ 関心と世界

近頃、本を読むのが楽しい。こんなに楽しいと思うのは、二〇年ぶりくらいのことだろうか。

たとえば日本史の本を開くと、そこに『今昔物語』の一節とともに、その時代の京都が描かれている。すると、います



ぐにでも『今昔物語』を読みたいと思う。高校時代、古文が嫌いだった私には、想像もできなかった心境だ。

歴史の本なんて、どこの小さな本屋にも置いてある。つまり、それは以前からそこにあつた。関心をもたない目には、それは紙の固まりにすぎない。ところが関心があれば、高いお金を払って買い求め、貴重な時間を使って読むことになる。

私のまだ幼い息子は消防自動車やパトカーが大好きだ。だから私は、子どもを自転車に乗せて消防署や警察署を何度も訪れる。しかし、この子は、そこに行くたびに「わっ、わっ」と大きな声を出し、喜んで車を見ている。それに関心があるからである。

つまり、問題は関心が持てるかどうかなのだ。関心さえ持つことができれば世界は驚きと輝きに満ちたものとなる。逆に関心が持てなければ世界は単調で、つまらないものとなるだろう。そういう意

味で、関心は人間にとつて満足できる人生の鍵なのかもしれない。

ただ難しいのは、関心をもつことが自分の幸福につながるものがわかつたとしても、自分の関心を自分で高める方法はほとんど考えられないということだ。

たとえば、私は高校時代に古文が嫌いだったと書いたが、いまのように古典文学に関心があれば、古文の勉強も嫌ではなかつたはずだ。高校生の私にも、それはわかつていた。だからなんとか関心をもとうと努力した。しかし努力すればするほど嫌になった。なんでも無理に好きになろうとすると、かえって嫌いになってしまうものなのかもしれない。

では、関心は自分ではどうにもならないものなのだろうか。関心が心に満ちあふれている場合は、それを楽しみ、関心が枯れ果て、何にも興味がもてずに退屈してしまう場合は、じっとそれに耐えるしかないのだろうか。



奥田真祐美
リサイタル
～聴こえるきこえる～
ジャン・フェラを歌う

日 時＝11月10日(土)
開場18時、開演18時30分
会 場＝サンケイホール
入場料＝前売券 ¥5,000
当日券 ¥5,500
(当日座席指定引換 17時～)

演 奏＝鞍富真一グループ
曲 目＝*聴こえるきこえる
*旅路の果てに
*愛の讃歌
*ボン・ボヤージュ
*私の回転木馬
*トワ 他

◎新しいCD発売
＜愛・ただそれだけ＞

- 愛・ただそれだけ
 - ふるさとの山
 - アメイジング・グレイス
 - あなたが欲しい
 - 愛の飲み
 - さとうきび畑
 - 二度とない人生だから
 - いつの間にか時は過ぎ
 - 海辺のサンダル
 - 過ぎ去りし青春の日々
- 10曲 価格=3200円(税込)

チケット・CDのお申し込み先＝
TEL FAX 06-6692-8774
ホームページ
<http://www.camphrier.com>
奥田真祐美 音楽事務所

このような問いに答えがあるのかどうか、いまの私にはわからない。しかし、私が心に決めていることが一つある。それは自分の関心を与えられたものとして受け取ることだ。つまり、天からの恵みのようなものと考えるのである。いまの私の関心があれば、高校時代には退屈で難解なものではなかった『今昔物語』が楽しく読める。これは本当に恵まれたことだと思う。

ただ、与えられたものはいつか奪われる。関心は理由もなく訪れ、理由もなく去っていく客のようなものだ。私の古典文学への関心は、突然、明日にでも消えてしまうかもしれない。そうすると日本文学のひとつの財宝に触れる機会を私は永久に無くしてしまうかもしれない。だから何にでも関心をもったとき、感謝してそれに身をまかせたいと思ってい。大きな風が吹いたら、高く舞い上がりたいと思う一枚の枯葉のような心持ちなのである。

(知)

好評のエッセイ!

岡知史著

- 知らされない愛について
- ほんの少しの神に近い部分

◎ どちらも 700円
06・6691・1028 富田まで

植物あれこれ

第三十二回

山口康二郎

ふるさと(3) 台風

連日三六度を越える酷暑を逃れて、例の田舎へ行っていました。呑気に畑仕事をしていると、台風十一号が近づいていることを知り、あわてて帰る用意を始めている自分に気がつきました。台風が好きなのは誰もいないと思いますが、私は特に台風に敏感だと自分でも認めています。

台風といえは必ず思い出す風景があります。昭和二〇年、終戦を迎えた八月十五日から一ヵ月後の九月十七日、広島は猛烈な台風に襲われました。後に枕崎台風と名づけられた台風です。山間の中腹にあった私の家は、吹き荒れる風と雨で悲鳴をあげていました。雨漏りというより家の中で傘をさしても濡れる状態でした。雨は上から降るというのではなく下から斜め上に吹き上げるのです。

濡れるのはまだ我慢ができますが、一番恐ろしかったのは、猛烈な風でした。疎開同然で立てた家は雨戸も不完全で、今にも外れそうになるのを母と二人で必死に押さえていました。東から猛烈な風が吹いているので東の戸を押さえていると、今度は北の風に、しばらくすると西にと台風の位置で風向きが変わるのを体験しました。

一睡もせず夜が明けた時の安堵感は今でも鮮明に覚えています。ほっとしていると隣りの家の人が、「川沿いの家が流されている」と教えてくれました。川のように水が流れている道もかまわず駆け降りて見ると、そこには信じられない光景がありました。魚釣りや泳いで遊んでいた川が、二〇倍・三〇倍の広さになり、褐色に変わっていました。

その川に「モー、モー」と泣きながら浮き沈みして流れていく牛を見つけた時、私

は大声で泣いていました。

当時八歳だった私には「終戦」より「枕崎台風」の方がより強烈に残っているのです。

この台風の死者は三七五六名、昭和の三大台風といわれる室戸台風(一九三四年)

とこの枕崎台風(一九四五年)、伊勢湾台風(一九五九年)は三〇〇〇人以上の犠牲者があったといわれています。

さて、今年の台風十一号は心配された被害も少なく、もたらした益は大きかったようです。植物もホツとしていることでしょうか。



秋彼岸

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく言われるが、今年の夏は異常に暑くて長かったために、秋彼岸を迎えても涼しくなるかどうか分からない。それでも朝夕はいく分しのぎやすくなってきた。群青色というのか、夏に比べる空の色も青みを増し、ぐんぐんと高く見える。その空に浮かぶ雲も入道雲からいわし雲やすじ雲に変わり、すっかり秋の気配が感じられるようになってきた。

さて九月二十日から秋の彼岸に入るが、一般には春の彼岸とともに「おひがさん」といって親しまれている。お彼岸といえれば私の幼い頃にはおばあちゃんが必要おはぎを作ってくれたものだ。そのおはぎの何ともいえない甘さが今でも忘れることができない。そしてお彼岸にはこ

晴れのち晴れ

36

稲垣 恵雄

先祖を偲び、ご恩に感謝するためにお墓参りをする慣わしがある。私はお盆にお墓参りをしたので、お彼岸は失礼しようと思っている。

ところで彼岸とは悟りの世界、生死の海を渡って到達する終局を指し、これに対して私たちが住んでいるこの世を此岸という。この世のことを娑婆といい、娑婆とは堪忍土、つまり耐え忍んでいくところと言われている。そう言えば私たちの人生は良いことは少なく、「一難去つてまた一難」「難問山積」の連続なので、正にこの世は堪忍土なのかも知れない。でもこのように考えるとどうしても心が暗く、塞ぎがちになるので、できるだけ夢や希望を抱くようにしてプラス指向、前向きに生きていきたい。秋彼岸を迎えるにあたってこんなことを思っている。

朗読テープのご案内

朗読テープ文庫

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で「サロン・あべの」紙第182号の録音テープが出来ました。

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第182号までそろっています。
 - (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー!」
 - (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
 - (d) 「ラジオたんば」放送(「サロン・あべの」平成七年五月の出会い)放送分(30分)
 - (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランテア活動の周辺(岡本栄一著)糸でんわ音訳
 - (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ」身障者だけで旅した十余年(山田誠1995・2・22著)糸でんわ音訳
 - (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著)糸でんわ音訳
 - (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著)糸でんわ音訳
 - (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著)糸でんわ音訳
 - (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著)糸でんわ音訳
 - (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修)大阪市立天王寺図書館制作
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著)ほけつと音訳
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳
 - (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著)糸でんわ音訳
 - (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著)糸でんわ音訳
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

美智子のこんな話

岸田美智子

ビデオを観てください

私が二年前まで、四年間暮らしていたグループホーム「ほんわか」の生活の様子を記録したビデオが、文部省選定の身体障害者啓発ビデオ「『ほんわか』の人びと」になりました。

障害者団体や福祉施設での研修などの教材として使ってください。

グループホームの生活は、小施設化になりやすい問題もありますが、その反面重度障害者の自立生活の場として、そしてまたいろいろな体験や人間関係を作っていく場

障害者啓発ビデオ

精神障害者啓発
心の扉をあけて

制作意図 地域での障害者の自立をサポートする生活支援センターの建設に、地元の住民が反対する「施設コンフリクト」が各地で問題となっています。このビデオは、精神障害者とそのサポーターらの地域活動と、近隣の人のふれあいを描き、精神障害者の地域生活への理解を深める手がかりとします。

あらすじ 大阪府の北部、閑静な住宅街に、精神障害者の作業所「もみじの家」があります。その作業所のリーダーは田中政則さん。田中さんは、精神障害者とふれあうようになって、「偏見がふつとんだ」、「みんな同じやないか」との思いを強くしたいです。作業所のメンバーは約20人、エサの袋詰め作業等を担っています。田中さんは地域との関わりを積極的にもうとしています。又、近隣との付き合いも大切にしています。精神障害者への偏見は根深くあるが、日常の生活の中でふれあい、知ってもらうことで理解が深まると信じています。この夏、地域でのイベントがめじろおし、近隣の人を招いてのコンサート。さらに、朝市や地区区会のお祭りにも参加しました。精神障害者が地域で暮らしていくためにはどうしても地域の人々の理解とサポートが必要なのです。あるメンバーのお母さんは「地域の人の理解がないと社会復帰に尻込みをする、暖かい目でみてほしい」と訴えます。

身体障害者啓発

「ほんわか」の人びと
(字幕付き)

制作意図 障害者が地域で自立して生活できる社会。そのような社会づくりに向け、重度身体障害者のグループホーム「ほんわか」の人びとの日常生活をおといて、地域で共に生活するうえで、私たちにできることは何かを考えます。

あらすじ 大和川に隣接する大阪市住吉区にグループホーム「ほんわか」ができて早や3年半。そこに住む岸田美智子さん、藤澤子さん、田中登美男さんは皆、身体が不自由です。そして岸田さんは24時間の介護を必要としています。グループホームを始めた動機を岸田さんは「障害者が主人公の生活をしたいことと、年老いていく歳を見て将来が不安であった」と語ります。いざ独立するとすると、家探しに苦勞しました。数多くの不動産屋さんにあたりましたが、障害者がグループで地域に住むことへの理解が不足しているのが現状です。ようやく見つかった家を車椅子で生活できるよう、段差をなくすなどの改修をしました。しかし最も苦勞したのは介護体制づくりでした。介護者は市から派遣のヘルパーさんと、ボランティアの学生や主婦が中心です。地域に住むということは地域社会の一員になるということです。岸田さんたち3人は作業所で働いています。一人暮らしの仲間もいます。皆一様に近隣の人の理解がうれしいといっています。

※文部省選定

として、最適だと思えます。このビデオを観ての感想やご批判をお待ちしています。

○連絡先

自立生活センター・

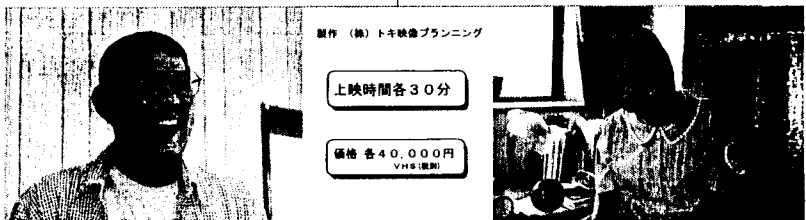
MYIDDO(まいど)

担当 下村・益満

〒五五八-〇〇〇二

大阪市住吉区長居西一-九-十二

キミハウス一階



制作 (株) トキ映像プランニング

上映時間各30分

価格 各40,000円
VHS(税別)

このビデオは、大阪府教育委員会が企画提供し、毎日放送で放映された社会教育テレビ番組「現代を生きる」シリーズから2作品をセレクトしたものです。

▲東映株式会社 教育映像課

- 関東営業所 / 〒104-8106東京都中央区銀座3-2-17 03-3535-3631
- 関西営業所 / 〒530-0002大阪市中北区岩根崎新地11-3-22 06-6345-9026
- 法政出張所 / 〒730-0042法政市中区国寿寺町1-5-31 082-249-3930
- 高松出張所 / 〒260-0032高松市本町11-7 081-851-3766
- 中部営業所 / 〒460-0003名古屋市中区丸の内3-24-3 052-971-0923
- 九州営業所 / 〒810-0801福岡市博多区中洲4-3-18 092-262-3101
- 北海道営業所 / 〒060-0061札幌市中央区南 李森7-4 011-231-1439

●お買い上げは...

障害者啓発ビデオのチラシ

文化祭

柴本実華

ボランティア同好会の新聞は、文化祭で
掲示することになった。第一号は、完成間
近。

「日本では、年間何頭の犬・猫が捨てられ
ているのか」

「捨て犬・猫は、その後どうなるのか」

「ペットを飼う時の心がけ」

と、いうように、皆で分担して記事を書い
た。あとは清書だけだ。そして、第二号は：
まだまだである。私は、岸本さんに質問した
ことをまとめた。皆、三年生なので忙しく、
あまり進まない。

実は、文化祭での活動のメインは、全て手
作りの、チャリティーバザーである。ぬいぐ
るみ・ビーズのアクセサリー・空き箱で作っ

た小物入れなど。夏休み、空いた時間に少し
ずつ作った。夏休みの終わり、三年生は、補
充授業がある。午後は、クラブ活動。私を含
める三人は琴部で、練習の合間に一緒に商

品を作っている。やっぱり、家で一人でやる
より楽しい。

それから、金券での募金活動。余った金券
で協力していただければ、と思う。

チャリティーバザーの売り上げ、集まっ
た募金は、「聴導犬育成の会」に寄付する。成
功を祈る。

ちなみに、阿倍野高校の文化祭は、九月二
十三日(日)二時まで。よろしかったらお越し
くださいね。

文化祭まで、一生懸命、頑張ります！

おしらせ

△サロン・あべのV10月の出会い

日 時 10月20日(土)午後1時〜4時

場 所 育徳コミュニティセンター2階

スロープ・車いすトイレ有り

〔阿倍野区阪南町5-15-28〕

内 容 1 大阪バリバリマップで

バリバリ遊ぼう

パネラー 2 社会資源マップ作成委員会

・石田義典氏

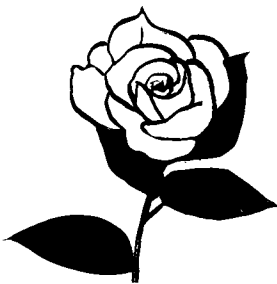
(中部障害者解放センター事務局長)

・小平琢平氏

(自立生活センター・ナビ)

お申し込みとお問い合わせ先 11

TEL 06-6691-11028 (富田)





サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」10月の社会い

日 時:10月21日(日) 午後1時30分~4時

場 所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内 容:おもいっきり栄養学

~食生活で美しい中高年へ変身~

パネラー:下出真知子氏

(医療法人良秀会藤井病院 栄養部長・管理栄養士)

会 費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:kubota53@mbx.inet-csaka.or.jp

■「サロン・ひらの」10月の社会い

日 時:10月13日(土) 午前10時~午後4時

場 所:平野区民センター(大阪市平野区長吉出戸5-3-58)

内 容:「楽しい運動会」に参加しませんか

会 費:500円(弁当を含む)

定員人数:先着60名

申し込みと問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西☎06-6795-2200

■「サロン・にし」10月の社会い

日 時:10月13日(土) 午後1時30分~4時

場 所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西區北堀江4-5-14 6階(西區役所隣)

地下鉄一西長堀駅4/A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内 容:みんな集まれ! 手話講座入門編

~基本的な手話を学び 手話を身近に感じましょう。

講座の後は、ティータイムとレクリエーションゲーム

で、楽しい交流会~

会 費:なし

問い合わせ先:宮脇☎06-6537-0241

■《てくてく・すみよし》10月の社会い

日 時:10月7日(日) 午前10時~午後3時

場 所:あびさん作業所(大阪市住吉区我孫子3-10-16)

内 容:バザー、ちょっと体験

問い合わせ先:山本篤江☎06-6692-8411

■「サロン・たみ」10月の社会い

日 時:10月27日(土) 午後2時~3時

場 所:伸幸苑(伊丹市寺本6-150)

内 容:音楽の集い(ピアノと歌唱)

会 費:なし

問い合わせ先:砂島☎0727-84-0057(午後7時以降)

■「サロンつるみ」10月の社会い

日 時:10月7日(日) 午後1時30分~4時

場 所:鶴見会館2階

大阪市鶴見区横堤5-5-51

(地下鉄鶴見緑地線横堤駅5番出口)

内 容:手づくりおもちゃで、みんな楽しく

パネラー:山田富士夫氏

会 費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村☎06-6913-7070

■「サロン『アイ』10月の社会い

日 時:10月13日(土) 午後1時30分~午後4時

場 所:生野産宅サービスセンター

「おかちやま」2階ビューロー室

大阪市生野区勝山北3-13-20

内 容:みんなで楽しい手話を学ぼう

~聴覚障害者の人たちと共々~

パネラー:林國彦氏(生野聴覚障害者協会 会長)

会 費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

ききみみずきん

かよちゃん

「サロン・あべの」紙七月号に、「姉、みかんちゃんをよろしく」と日本聴導犬協会で訓練を受けている妹分のかよちゃんから届いたお便りを載せました。覚えておられる方もいらつしゃると思います。そのかよちゃんの活躍を八月二十九日付の毎日新聞で見ました。「聴導犬空の旅、国内便に初めて搭乗―松本空港発の大阪經由羽田行きで実現」と。かよちゃんは千葉県の沢和さんに今年五月に貸与され、この日搭乗試験を受けて成績優秀でパスしたそうです。みかんちゃんも妹の活躍を喜んでいて、とでしようが、このように各機関ごとに試験を受けなくても聴導犬の課程終了証書があれば、

どこへでも介助犬として出かけられれば、聴覚障害者の行動範囲も大きく広がることと思えますので、一日も早い公的認知が得られるように願っています。肢体障害者のための介助犬も、今はまだ聴導犬と同じ立場です。共に受け入れられる社会は、地域の人たちの理解と支援の声が拡がることではないでしょうか。「サロン紙七月号の聴導犬の記事が心に残り、所属の会合で『聴導犬が加わったことで、聴覚障害者の夫妻に新しく楽しい生活が……。もつと聴導犬の育成を皆が心がけていただくよう。』話をしてきました」と、嬉しいお便りもいただいています。

(け)

FROM EDITOR

編集後記

今年も「さろん亭」にたくさんの方から「でっかく、協力を！」いただき、途中雨に降られるアクシデントがあったとはいえ、大事なく終え、その間、いろいろな出会いがありました。これはこれでたいへんありがたく、うれしいことです。・・・が、「活動資金調達」の方は残念ながらもうひとつ芳しくなく、年々下がっています。なんでやろ？ (石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.183 [H.13. 9.15.発行] 定価¥100.
 代表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL06-6691-9071
 連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX06-6691-1028
 表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美瀬子
 郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDE#2F TEL06-6719-8212